

Sport  
Godzilla®

# スポーツ ゴジラ®

第 54 号

特集  
人材育成

無料



スポーツ振興くじ助成事業

Sport  
Godzilla®

# スポーツゴジラ®

〔第54号〕

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。  
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が  
商標使用の許諾を受け、スポーツネット  
ワークジャパンが発行しています。

2	第54号を発刊するにあたり	長田 渚左
	<b>■特集■</b>	
	<b>人材育成</b>	
4	第12回日本スポーツ学会大賞記念講演 「人を育てる」—— 佐々木 洋	構成 阿部 雄輔
28	菊池 雄星 インタビュー	
33	大谷 翔平 受賞の言葉	構成 山内 亮治
34	興味のあるものは 2つでも3つでもトライしてほしい—— 寶 馨	取材・構成 長田 渚左
40	水泳は自己表現の一つです—— 河合 純一	取材・構成 長田 渚左
46	『走』第1回「速さ」は産業革命以後の価値!?	玉木 正之
47	夢劇場『馬』No.26「神様がいっぱい」	長田 渚左
48	バックナンバーのご案内	

【表紙イラスト】南 伸坊

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>  
バックナンバー第43号～52号はホームページからもお読みいただけます。

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や  
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

## 第54号を発刊するにあたり

編集長 長田渚左



2年以上に及ぶコロナ禍で、忍耐や辛抱を余儀なくされる日常が続いています。

そんな中、米大リーグの大谷翔平選手や菊池雄星選手の活躍は、私たちを勇気づけ、暗くなりがちな日本の社会を、明るく照らしてくれました。

二人は昨年のMLBオールスターゲームに同時に選出されました。しかも、ともに岩手県の花巻東高校の出身でした。

そこで日本スポーツ学会は、第12回のスポーツ学会大賞に菊池雄星選手、大谷翔平選手とともに、2人を育てた花巻東高校の野球部監督・佐々木洋氏を選出しました。昨年のスポーツ界の顔となった2人と、その恩師の3人同時の受賞に、授賞式の会場となった佐々木監督の母校国士舘大学の多目的ホール

には、大勢のメディアが殺到しました。

会場は内閣官房の新型ウイルス感染対策に従い、参加者は会員とその同伴者に限らせていただきました。それでも開催前に「感染した」「濃厚接触者になった」との連絡が相次ぎ気をもみましたが、佐々木監督は春の選抜大会へ向けた練習の合間を縫って岩手から駆けつけてくれました。

心より感謝と敬意を表します。

当日、佐々木監督には『人を育てる』というテーマで講演していただきました。豊富な人生経験に裏打ちされた独特の指導哲学は大変興味深く、来場者から「コロナ禍の中、無理しても来た甲斐があった」という声を多くいただきました。

今回は文武両道の人生を歩まれている、日本高等学校野球連盟の新会長に就任された寶馨氏、北京パラリンピック日本選手団の河合純一団長のインタビュも合わせてお届けします。スポーツで人を育てる。スポーツで育つ。54号をお楽しみください。

ご協賛およびご協力企業・団体



株式会社 御福餅本家

人と社会を支える力



国士舘大学

文藝春秋



Eat Well, Live Well.  
AJINOMOTO



上月財団



立ちどまらない保険。



MS&AD

JAPAN SPORT  
COUNCIL

三井住友海上

JWCPE 日本女子体育大学



都市に豊かさと潤いを

三井不動産

株式会社東美物流



笹川スポーツ財団  
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

東江テクニカ

公益財団法人  
住友生命健康財団



FORUM8  
エンジニアリング・ソフトウェアカンパニー

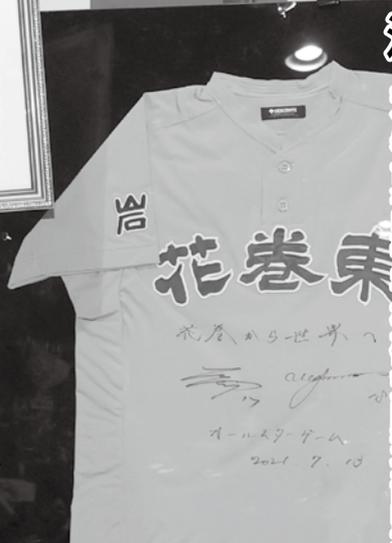
(順不同)

# 人材育成

第12回日本スポーツ学会大賞記念講演

# 人を育てる

佐々木 洋 (花巻東高等学校硬式野球部監督)



母校国士館大学の太澤英雄理事長(左写真)から表彰状、日本スポーツ学会大賞の第12回を受賞した「日本テレビ箱根駅伝チーム」の坂田信久氏(右写真)よりトロフィーが授与された。

構成＝阿部雄輔

**佐々木 洋** (ささき・ひろし) 1975 (昭50) 年 7 月 27 日、岩手県北上市生まれ。黒沢尻北高から国士館大に進む。現役時代は捕手。98年、国士館大政経学部卒業。横浜隼人高(神奈川)野球部コーチを務めた後、2000年に花巻東高に移り02年秋に野球部監督に就任。05年夏、甲子園初出場。09年春、選抜で春夏通じて岩手県勢初の決勝進出(準優勝)。同年夏、ベスト4。県民栄誉賞受賞。21年秋季東北大会初優勝。明治神宮大会ベスト4。22年春、選抜大会出場。佐々木監督就任後、花巻東高は甲子園に春3回、夏8回出場。菊池雄星(マリナース)、大谷翔平(エンゼルス)、岸里亮佑(元日ハム)、高橋樹也(広島)、千葉耕太(元楽天)、松本遼大(日ハム)の6名のプロ野球選手を輩出している

菊池雄星が盛岡市出身、大谷翔平は奥州市水沢出身、ロッテの佐々木朗希投手は陸前高田市出身です。なぜ岩手県から良い選手が出てくるようになったのか。理由はふたつだと私は思います。

ひとつは間違いなく今、子供たちの意識が変わりました。私、何が大事だつて、選手の意欲と意識を変えることが一番だと思ってるんですけども、今、入試で面接する中学生たちはみんな口をそろえて言います。「プロ野球選手になりたい」「ドラフト1位で僕も行きたい」って。私、えらい勘違いだなと思って聞いていますけど、ただ良い勘違いでもあると思うんですね。昔だったら口が裂けても言えませんでした。でも目の前からどんどんドラフト1位が出て、メジャーに行く選手が出てきたら、みんな平気で言えるようになりますよね。

もうひとつ、指導者の意識も変わりました。昔も良い素材はいたと思うんですけど、育てる環境がなかったということでしょう。冬はグラウンドが

使えないので、私が中学、高校の頃はひたすら走ったり、雪を固めてサッカーしたりで、ほんとに野球がうまくなるために必要な練習してたかっというのと、寒い中でできることしかしてなかったと思うんです。当時動画もなかったんで、全国のレベルも知らない井の中の蛙でした。今、中学校もシニアのチームができたり、中学校の先生がKボール（硬球の外径と反発特性を持ちながら構造的に軟球の安全性を備える）の大会してくれたり、指導者の意識も変わってきたと思います。そういうふうには岩手の人たちの意識が変わってきたのが、良い選手が出てきた理由じゃないかなと思います。

人を育てるのは簡単じゃないと日々感じています。が、簡単なこともあるんです。私、中学校に行つて高校説明会の時に、「足が速くなりたかったら、足の速い人の側に行けばいい」って言うんです。「うまくなりたかったら、うまい人の側に行けばいい」。逆に、言葉は悪いけど、「バカになりたかったら、

バカの側に行けばいい」んです。「クラブ」のような遊ぶ場所に行ったら薬物に遭うことがあるかもしれない。けれど図書館で薬物に遭うことはないですよ。自ら良い場所に行つて良い人に触れ合うことこそ自分を伸ばしていく、育てるといふことじゃないでしょうか。なので、「良い人とはほとんど濃厚接触しろ」と言っているんです。「悪い人とはソーシャルディスタンス」です。

### 恩師に言われた「お前、邪魔してる」の意味

私、野球の力がなくて20歳で国士舘大学の寮を出されることになったので、岩手に帰つて指導者になろうと思いました。そうしたら当時の野球部の武居たけすえ邦生監督に、「お前、そのまま岩手に帰つたつて良い指導者になれないぞ」と言われて、国士舘大学の先輩、横浜隼人高校（神奈川）の水谷哲也監督の下で修行させていただくことになりました。

私、これだけ分かつたら岩手に帰ろうと思つてい

たんです。なぜ岩手は弱くて神奈川や関東はレベルが高いのか。当時、江戸川区（東京）のリトルリーグに中学校3年生の松坂大輔選手がいて、もう140kmぐらいのボール投げてるんです。衝撃を受けました。岩手とこっちの違いは選手の能力の違いだと勝手に思い込んだんです。

横浜で勉強させていただいて、2000（平成12）年に岩手に戻つて、花巻東高校に採用してもらいました。野球部やらせてもらえるのかと思つたら、最初バドミントン部でした。その次に女子ソフトボール部を立ち上げるつて言われて女子ソフトボール部に行つたんです。

野球部の監督はできないのかなと思つていたら、お話をいただいてコーチをやることになりました。最初の仕事で宮古市の中学校の練習を見に行つたんです。後ろからハンマーで頭を殴られたような衝撃を受けました。松坂選手つてすごいなあと思つていたけれど、岩手にもすごい選手いっぱいいたんです

よ。能力の違いがあるわけじゃない。岩手と神奈川と同じ日本人の15歳で、能力の差なんてないんですね。じゃあ現実的にあるこの差は何なんだと。良い素材はあるのに鍛えられてなかつたんです。指導者に差があつたんです。その時に矢印の方向が初めて自分の方にポーンと向きました。

監督の話が来たのは2002(平成14)年でした。実は花巻東高校はそれまでOB以外で監督した人がいなかったんです。1975(昭和50)年までは花巻商業つて言つて、甲子園に出たこともあつてプロになつたOBもいて、その強かつた時代の方々が当時社会人の監督とかにいらして、これはめんどくさいことになるなと思つて理事長に何度かお断りしたんですが、お引き受けすることになりました。

監督になつてすぐ、秋の岩手県大会で準優勝したんです。そして2年目の夏、ベスト4です。さらに次の夏もベスト4です。すぐ勘違いしますので私、この先すぐ甲子園だと思つたら、何とその秋に地区

大会で負けたんです。花巻東の隣に花巻北つていう進学校があるんですけど、そこに地区大会で負けた。もうクビだなと。OBでもないのでもう駄目だな、所詮つなぎだしと思つて翌日理事長室に謝りに行つたんですけど、もう一度チャンスをいただきたいんです。

ふとその時に、これ、神様が何か教えてくれてるんじゃないかと思つたんですね、その時の私だけは唯一褒めてあげたいと思うんですけども、自分を変えなきゃいけないと思えたんです。

私みたいな二流の指導者でも、監督になると誰も指導してくれなくなる。注意もしてくれなくなります。こりゃあいかんと思つて私、ある人に頼んで練習を見に来てもらいました。この方も国士館大学OBで私の恩師です。その人に安月給の中から交通費を払つて来てもらつて、練習見てもらいました。

私も大学卒業してある程度成長してノックも上手になつてましたので、自信満々、グラウンドでノック

ク始めたんですよ。完璧にノックして完璧に指導して、で、「成長したな」と言葉かけてくれると思ったら、ひと言だけ言われました。「お前、邪魔してる」って。そして「選手に練習メニュー組ませろ」って言われました。

選手にメニューを組ませると、ランニングは消えて守備練習はなくなり、バッティングとか好きな練習しかしくなります。キャプテンと副キャプテンが持つてきたメニューは案の定、そういうことになってました。ただトップダウンで私が変わっちゃいけないので、「そう言えばこないだこういうミスがあつたけど、あれやらなくていいか？」って言い方したんです。そしたらキャプテンと副キャプテンが、「やっぱり必要だな」とか話し合つてメニューがどんどん変わつていきました。あの時ですね、あたかも選手たちが自分で決めたように導いていく、誘導するノウハウ、技能を私、手に入れました。

それでも「邪魔してる」の意味はまだ分かりませ

んでした。春になって驚きました。4月になって雪が融けて、いよいよノックだと思つてノック始めた瞬間、生徒たちが話し始めたんです。ああじゃないこうじゃないそうじゃないって。「邪魔してる」の意味が初めて分かつたんです。私が的確に指導して正解をどんどん先に言つてしまうので、子供たちの思考が停止していったんです。「邪魔してる」の意味をその時初めて知つて、深く染み込んできました。

地区大会に負けてクビを覚悟したその選手たちが2005（平成17）年夏、私を初めて甲子園に導いてくれました。キャプテンは今度トヨタ自動車東日本で監督になることになり、副キャプテンは岩手県の本で監督を若くしてやらせていただいています。

### 経営に学ぶ

恩師からもうひとつ言われたのが、「経営者から学べ」ということでした。マネージメントという言葉すら知らなかつた時です。高校野球が経営から学

ぶことがあるのか、意味が分からないと思っただけですが、ただ自分を変えよう、変わらなきゃと思っただけなので、まず野球の雑誌ぜんぶ捨てました。それまで講習会と言えば元プロ野球選手のバッティング理論とか、そういうのにはかり行っただけですが、それも一切やめて、経営の本を買って経営のセミナーに行き始めたんです。

それまで中学校に選手勧誘に行っただけだと、理由が分からなかったんです。よそより条件は良いはずなのに、うちを断ってよその学校に行くと言われて、ほんと悔しい思いをしました。経営的発想に立って考えたら、選手と親は顧客です。顧客満足を考えて、出口を見たんですよ。人は出口があるから入口から入ってくるんだと気づいたんです。花巻商業時代はプロ野球選手もいたんですけど最近ではゼロ。大学進学ゼロ、社会人野球もゼロだったんです。顧客満足で考えたら誰も入れないですよ。なるほどと思っただけ、出口整備から始めました。

出口整備していたら、どんどん雪崩のごとく人が入ってくるようになりました。たとえばプロ野球や大学、社会人野球に行くピッチャーが一人育つと次から次へとピッチャーが入ってきます。経営から言ったらこれ、仕組みづくりだったんです。

それからブランド力が大事だと、経営的発想から言ったらロゴマークだと思いついて、ロゴマーク作る会社と交渉してマークを作りました。横浜高校の古いTシャツがネットで6000円で売られているのを見て、「いつかうちも」と思っていたんです。最初は学校にも内緒で帽子にマークつけて。そうしたら今、うちの偽物も結構出るようになりました。いよいよ学校が商標登録することになって、私、学校に権利を譲ったんです。2万円で買ったロゴマークを10万円で譲ることになりました。

岩手県胆沢郡金ヶ崎にあるトヨタ自動車東日本の工場を見学させてもらったことがあります。ほんと無理と無駄がなくて、効率的、効果的なんです。何

でこんなによくできてきているのかと思つたら、現場に改善班がいて、グループで改善しているんですね。うちの練習もそうしています。練習の改善点や方法は生徒の方がよく分かっているんです。改善グループがあつて、私に提案してくれます。

もうひとつトヨタに学んだことですが、うちの室内練習場、部員全員が練習するにはちよつと狭いんです。100人いると、腹筋したりとかスイングしたりとか、やれる練習だけになります。まったく非効率、効果的じゃないんです。それで今、冬の間、休みの日の練習を朝のグループ、昼のグループ、夜のグループと3つに分けたんです。トヨタの工場が三交代勤務だったのでそこから学びました。そうしたら、前から来るボールを打てるようになりました。それができなかつたから東北人、ひたすら走っていたと思うんですよ。3つのグループでコーチも入れ替えています。もちろん働き方改革もあるんですけど、うちはその前から交代勤務です。朝のグルー

プで練習が早く終わつて、初めて自分の子供を連れてご飯食べに行くことができました。

経営から学んだことは非常に多いのですが、一番大事なことは、あらゆる企業、あらゆる人たちの新しいもの創りは、非常識な発想、常識を常識と思わないところから生まれるということです。だからまず、すべてをもう一回疑おうと思つたんです。

たとえばなぜ高校野球は2列で走るのか。なぜ坊主頭なのか。トスバッティングの練習は本当に必要か。シートノックつて試合前の7分間、ノックの間がありますか。みなさん必ずサードからやります。何でだろう。昔は長嶋茂雄さん、原辰徳監督、右バッターに良い選手が多かつた。左方向に強い打球、速い打球が多かつたのでサードとショート守備力が高くなければなりませんでした。今、野球変わっていますね。イチロー選手、松井秀喜選手、大谷翔平、みんな左バッターです。右投左打が圧倒的に増えました。セカンド、ファーストが大事なんで

す。それならノックをセカンドからするべきじゃないかと考えて、私、セカンドからしているんです。あえて変わった発想しようと思つています。シートノックの7分間、許されるのであれば、バッティングするとか走塁練習するとか、そこまでぶつ飛んだ発想を持つてもいいんじゃないでしょうか。

高校野球について考えなきゃいけないこともいろいろあるなと思つていきます。時代が変わつたんです。これからも変わります。根拠と原理がなくて、習慣や伝統、経験論や精神論だけで行われていることも多いです。倫理ではなくてルールの構築が必要です。絶対に変えてはいけないものと迅速に変えていかなければならないものがある。高野連が残してくださいだったものでほんとに大事なこともたくさんあります。時代が変わつても絶対に変えてはならないものがある。一方で、完璧に変えなければならぬものがあります。変えるべきことと変えるべきでないことを見極めるのがわれわれ指導者の仕事です。

圧倒的に時代の流れを先読みしていくことが必要じゃないかなと思います。

今、投げさせないことが良いみたいになっていますが、ピッチャーは投げることでしか成長しません。いけないのは投げ過ぎです。投げさせなかったら良い監督だというのはちよつと違うんじゃないかと思ひます。球数だけで一律に見るんじゃないか、人間の身体の機能をよく見て、人それぞれカスタマイズしていくことが大事じゃないでしょうか。

指導、育成は風揚げみたいなものだと思うんです。ぎりぎりのところを見ながら、強く引つ張つたり緩めたり。ストレスをかけ過ぎるから駄目になる。でもストレスでみんな強くなつていくんです。

### 庭造りに学ぶ

私の家、農家なんです。次男坊なので土地はぜんぶ兄貴にほぼ譲るんですけど、家を建てる土地だけ親父がくれたんですね。お金はないけど土地だけは

あるので、自分で庭を造るようになりました。

ホームセンターに行つて、980円とか1980円ぐらいの苗木を買つてきます。だいたい私バカだつたんです。好きな同じ木を買つてきて、植える時は小さいからいいんですけど、成長し始めたらお互いが邪魔するんです。秋になったらみごとに葉っぱが落ちちゃう。生徒にはあれだけ長期的に物事考えろと言つているのに、また掘り返して埋め替えたりです。隣に住んでいる親父から、「ヒロシ、バカだなあ」つて言われました。「松に価値があつて、モミジに価値があつて、桜に価値があんのが分かるのか」と言われたんですね。

グサツと来てですね。私いつもすべてのことから野球に活かせないか、教育に活かせないかと、あらゆることから考えることにしてるんですよ。そういう目で見えた時に、同じ選手ばかり育てているんじゃないかなと思つたんです。ホームランバッターばかりで打線組んでないかと思つたんですね。実は

菊池雄星投手が1年生の夏の甲子園で新潟明訓高校に0対1で負けたんですけど、その時は左バッターを8人並べた打線で、ひとたび打つとみんなが打つ。ひとたび打てないとみんな打てない。これは庭と一緒に思つたんですね。

ある時、親父の家の裏庭から立派な木を持つてきて植え替えたら、みごとにみんな枯れたんです。庭師さん呼びました。そしたら怒られたんです。「佐々木先生、あんた忙しいんだから、あんたのタイミングで植え替えんなよ。梅雨時期の前がいいじゃないか。水やることないから」と言われたんですね。そして、「先生、ちよつと下がつてな。お茶飲みながら、そこに座つて見るんだよ」と言われて、「お茶飲んで休んでんじゃねえんだ。俯瞰して見るんだ」つて言われたんですよ、全体を。「あんたスコップ持つて、その真下だけ見て掘つているんだろう」つて言われたんですね。

確かにそうでした。これも野球に活かせるかもし

れないと思つてですね。私、ノックは監督と選手の一対一の対話、青春ドラマだと思つていたんですけど、優秀なコーチたちにノックは任せて、高いところから見始めたんですよ。そうすると今までショットにノックしている時はショットばかり見ていたんですけど、ふとライトが何しているかとか、そういうところに目が行くようになったんです。

ほんとに庭から学んだことが非常に多かつたんです。松の木は杉の木の側で真つすぐ成長するそうです。なるほど人も一緒だなと。良い人に囲まれていると伸びるんですね。勉強できない子が特進に入ると伸びるんですね。勉強できる子がスポーツコースに来ると落ちるんですね。まさに一緒だなと。

### 盆栽に学ぶ

庭造りの次にいよいよ盆栽の世界に入っていきました。何でこんなにきれいなんだろうと思つて勉強したら、簡単でした。若い頃に針金ぶつ掛けている

んですね。将来輝いて価値が増すように針金掛けていたんですよ。私はああいうふうになる種を買つてきてあなつていているんだと思つたんですけども、驚きました。そうなると今、自由だ、自主性だと言つてますけど、親が見えない針金をちよつと掛けてあげることも大事じゃないかなあと思うようになりました。自主性と矯正、そのバランスの中で活かすことが大事じゃないかということです。

オリンピックの卓球選手、見てください。家にほぼ必ず卓球台があつて、お父さんやお母さんに仕込まれていますよね。クラシックの演奏家とかもほとんどがそうじゃないですか。小さい頃に針金掛けて、掛けられて、そつちの道に進んだつて方が多いと思うんです。ただ掛けて失敗する例もあることだけは知つておかなければいけませんね。

大谷翔平選手を日本ハムに送る時に私、「外出禁止にしてくれ」と頼んだんです。プロ野球の世界に入ると、いろんな人にいろんなところへ引つ張りま

わされることがあります。中には反社会的勢力とつながりがある人がいるかもしれません。

大谷本人には、「運転するな。車なんてない方がいい。事故起こしたら大変だよ。ちゃんとした選手になつてから立派な車買えばいいし、それより運動手つけた方がいいんじゃないか」って言ったんです。彼は本当にそれを守ってくれて、日本では運転せずに、アメリカに渡つてから免許取りました。こういうふうな見えないところで針金掛けてくのも大事じゃないかなと思つていますね。

私、銀杏の木が大好きで、いよいよ色づいた庭を造ろうと思つて、親父に買つてきてもらつたんです。そしたら、小さな器に入った木を買つてきました。『俺は庭に植える大きなのが欲しかつたんだ。こんな飾るやつじゃねえ』って言つたんです。そしたら親父に、「お前、バカじゃねえか。植え替えればいいんだよ」って言われたんです。私、小さい器だと小さく育つて、広いところに植え替えると大き

く育つということがその時初めて分かつたんです。つまり、「メジャーに行けるよ」「160 km出るよ」つて、大きな器に入れると大きくなつて、「メジャーなんか行けるわけない」「160 kmなんて無理」つて言つてたら小さく育つんだということです。

人に与えなきゃいけないものが4つあると思つてます。ひとつは「環境」です。私は160 kmの投げ方を教えることはできませんが、環境だけは与えてやる。さっきの杉の木の話じゃないですけど、高いレベルの人の側に行かせてやる。菊池雄星も大谷翔平も、早くから大学の練習に預かつてもらつたり、社会人の練習にどんどん行かせました。ふたつ目は「責任」を与えるつていうことです。人は人に責任を与えられて変わつてくんじゃないかと思つています。3つ目に「夢」を与える。4つ目に「愛情」を与える。

人にかけてあげなきゃいけないものも4つあると思つています。「時間」をかけてあげる、「良い言葉」

をかけてあげる、「期待」をかけてあげる、そして「負荷」をかけてあげること。負荷って、さっきのストレスの話です。程よいストレスがあるから人って成長していくんです。

### 中学校の先生の導きで番長から生徒会長に

偉そうな話してますけど、実は中学校時代の私も非常に悪かったんです。他人のせいにするなという生徒には言っているんですが、実は私のご近所環境が悪かったんです。悪い人ばかり住んでいたんです。ちよつと有名な組の長とか暴走族つくった人とか。その中で私の小学校1年生、集団登校が始まるんです。黄色い帽子かぶってリュックサック背負って登校するんですが、先輩たちが朝、駄菓子屋で万引きするところを見ながら登校する日々が始まってですね。小学生の私、そうやって育っていったんです。

2つ上に兄貴がいて、あいつの後ろには怖い先輩

がついているというので、みんなに腫物に触るようになちやほやされて、小学校6年生になる時には無事番長に就任しました。2つ年下の私も、あああいつの弟かつて言われて持ち上げられて、小学校6年生の時に無事番長に就任させていただきました。

当時『ビー・バップ・ハイスクール』っていう漫画が流行っていて、ボンタンと短ランというのが流行っていました。裾の短い学ランの前をバカッと開けると中の裏地がもう紫です。龍のマークがブワーツと入っているのを着て中学校に行っていました。小学校6年生からそのまま番長で、保護観察付きの少年院上がりも私の部下にいました。

そんなある日、私の家に担任の先生がやって来たんです。夕方4時ぐらいに家に帰ると先生が家に来ていて、何言いだすかと思えば、「お前、生徒会長やれ」って話だったんです。「バカ言ってるじゃねえ。やるわけないだろう」って言って鞆をバンツって茶の間に放り投げて2階の自分の部屋に上がってったん

です。翌日また来てました。「生徒会長やれ」「やるわけねえだろう」ってやり取りで。2週目になったらいよいよ校長まで連れて来たんです。私この通りお調子もんですから、「分かった。やりやあいんだろう」って生徒会長やることになったんです。

どうなったと思いますか？ さっきの言葉じゃないですけど責任与えられた瞬間に、「あ、やばい。こんなの着てる場合じゃねえな」って、ボンタン、短ランを脱いで正規の学ランを着るようになります。何度脱げ脱げと言われても脱がなかったのが、自分の意志で替えたんです。

先生、プロフェッショナルでした。私の能力を使って学校を変えたんです。私、番長ですから、少年院上りの二人も含めてみんな私の言うこと聞いてくれたんですよ。誰一人ヘルメットかぶらなかつたのに、私が生徒会長になって、「おい、明日からヘルメット」って言った瞬間に全員ヘルメットをかぶって学校に来るようになりました。

### お先真つ暗の20歳。一冊の本と出会い

レバレッジだと思っただけです。テコの原理です。先生は私のリーダー性を見抜いて学校まで変えていったんです。生徒会長でリーダー性を発揮することになって、私の人生も劇的に変わりました。私の人生を変えてくれた先生です。私、実は最初から野球部の監督になりたくてなつたわけではなくて、本当は教員になりたかったんです。その先生に、「お前みたいなやつが先生しなきゃ駄目だ」って言われた言葉がずっと心に残っているんです。

この間、私の出身校・黒沢尻北高校の先輩で『ドラゴン桜』の原作者・三田紀房先生に花巻東で講演していただきました。三田先生は言いました。「人生は一日にして劇的に変わる」と。「素晴らしい人に出会うことで劇的に変わることがある」と。確かに私の人生を振り返っても、人との出会いで劇的に変わっています。

プロ野球か社会人の選手になりたいって夢を持って、岩手から国士舘大学鶴川キャンパスにやってきました。当時、大学2年生になると、新入生を入れるために見込みがない選手は寮を出されたんです。今はシステムが変わって全員残れるようになりました。私が、プロか社会人に行きたいと思いつつ、あわよくば寮も出たいて頭で描いたんです。東京で一人暮らしして、彼女作って遊んでやるぞと思ったんですね。大学2年生でリストラに遭って寮出されたんですが、もうひとつの夢は叶ったので私、喜んで鶴川駅までダッシュで行って、不動産屋で部屋を借りました。勉強に目覚めたただの教科書を買うだけの親に嘘ついて仕送りしてもらって。町田のダイクマっていうホームセンターで布団からテレビからぜんぶ買って来たんです。テレビなんか寮で見られませんでしたから、好きな番組見られると思って嬉しくて。1980円ぐらいの折畳式のソファ買って、ソファに座ってパチンとテレビの電源入れたんです

よ。その時に衝撃が走ったんです。何で俺、こんな人生になつたんだと思って、初めて悩んだんです。

人生で初めて本当に悩んだので、本屋に行つたんです。手に取つたのがナポレオン・ヒルという人が書いた『思考は現実化する』って本でした。パラパラパラッとめくって、うん？ と思つたんですね。

小さい頃から「夢持て、夢持て」とみんなに言われてきました。オリンピック選手が来てもプロ野球選手が来ても、「夢はでっかく持とう」と言つて帰っていくんですね。でもその本に書いてあったことは違いました。「夢と目標はそもそも違う」ということが書いてあったんです。そして、「夢は目標に変えなきゃ叶いませんよ」って書かれていました。

目標って何だというと、「数字があつて期限があるのが目標だ」って書いてある。「目標は紙に書け」って書いてあったので、文房具屋に走って手帳を買ってきました。今度は高校野球の監督になりたいと思って、数字を挙げろ、期限を決めろと書いてある

ので、じゃあ、「28歳で甲子園」って書きました。

そこで黒沢尻北高校に年に一回、創立記念日に誰かOBが来て、講演があつたなと思ひ出した。甲子園出たら講演に呼ばれるなと。「黒北で講演する」と書いたんですね。あ、江釣子えづりこ中学校でもやれる。「江釣子でも講演する」って書いたんです。20歳の私、テレビつけたけど、真つ暗だったんです。この先が真つ暗になって何も見えなくなった時に、その目標を立てたんです。

2009（平成21）年に選抜で準優勝した後、とんでもない数の講演依頼が来ました。いろんな学校からも来て。私、校長先生に言つたんです。「うちの生徒にも話してないのに他校じゃ話ししませんよ。断ってください」って。「でもすみません、黒北だけはやらせてください」って言つたら、案の定、来たんです。生徒にその時の手帳見せて言いました。「悪いけど14年前からこのスケジュール決まつてたんだ」って。

菊池雄星が入ってきた時、私、言つたんです。「雄星、ドラフト1位じゃなかったら大学だ」って。2年生の時にいよいよドラフト1位になりそうになつてきたんで、今度は「複数の球団が1位指名しないと行かせない」って言つて、何球団か目標を書かせたんです。本人、「監督さん、じゃあ8でもいいですか」って言うわけですよ。結果は6球団でした。でも私、8にしたから6になつたと思うんですね。

人生が夢を作るんじゃない、夢が人生を作るんです。ビル・ゲイツも言っています。「成功の力は的を見失わないこと」だと。孫正義さんも言っていますね。「自分の持った夢に自分の人生はおおむね比例する」と。ヘレン・ケラーも言っていますよ。「この世で一番哀れな人は、目が見えていても未来の夢が見えていない人だ」。で、私の言葉が大好きです。何かあると書かせてもらっているんです。「人生の悲劇は目標を達成しないことではなく目標を持たないことである」。

## JAPANのユニフォームを着る

花巻東に来て最初の頃は家の手伝いしてコンバインにも乗ってましたし、トラクターにも乗ってました。私、ツナギが似合う男なんです。そんな私もあわよくばという夢を持って、JAPANのユニフォームを着たいと思っただけです。当時、夏の甲子園で優勝すると高校日本代表チームの監督です。準優勝監督がコーチです。いつかJAPANのユニフォームを着たいと思って、日本代表の監督になった監督の写真を手帳に貼りました。夢を叶えるテクノロジーです。必ず貼れって書いてあります。

2009年の夏、準々決勝まで勝ち上がって、生徒に手帳を見せたんです。ファーストを守っていた横倉って子呼んで、「横倉、あと2つ勝つたらこれ着れるんだよ。何とか頼む」って言ったんです。私みたいなタイプなんです、横倉。「監督さん、分かりました、いいですよ、任してください」みた

いなこと言っていたんですね。でも準決勝で中京大（愛知）にぼろ負けしたんです。

選手にやる気を持たせるために言っただけだったんですけど、負けた日の夜のミーティングで横倉がぼろぼろ泣いてですね、鼻水垂らしながら、何しやべってるかよく分からなかったんですけど、「監督さん、すいません、JAPANのユニフォームが……」とか言い始めて。いやいや、そんなつもりで言っただんじゃないって言っただんですけど、雄星まで、「監督、すいません」って言ってきた。

そしたら翌日、決勝戦が終わって日本高野連から電話が来たんです。「佐々木監督、準優勝校の監督が辞退されたので……」と言うんですね。いよいよ来たかと思ったんですが、調子に乗っちゃいけないと思って、「ベスト4もう1チームありますから。向こうの監督さん先輩ですし」って言っただけです。一応。そしたら、「春選抜準優勝しているから満場一致だった」って。

生徒のおかげで、ツナギ着ていた男がJAPANのユニフォーム着させていただいたんです。田んぼの上で作業していた男が、メジャーのグラウンドでノックしたんです。今ソフトバンクにいる今宮健太君（明豊Ⅱ大分）とか広島島の堂林翔太君（中京大中京）とか阪神の原口文仁君（帝京Ⅱ東京）とか錚々たるメンバーに、スコップをノックバットに持ち替えて、ツナギをJAPANのユニフォームに着替えて、田んぼの上からメジャーのグラウンドに乗り込んでノック打たせてもらったんですね。

### 夢を夢で終わらせず目標とするために

夢と目標はそもそも違うんです。夢は「なったらいいな」「なれたらいいな」。目標は「なりたい」「なりたい」ですから、その次に、だつたらどうしたらいいだろう、そのためにはどうしたらいいだろう、何が必要で何が足りないんだつていうことを考えるんです。ところが夢は夢のままだと「なれたらいいな」

で終わってしまうので、叶わない。ユニクロを創った柳井正さんも言っています。「目標が具体的かどうか。ちよつとしたことだがここが成功する人とならない人の決定的な差だ」って。

なぜこんな大事なことを小学校で教えてくれなかったんだらうと思うんですよ。足し算やルートの計算よりも、最初にこの法則を教えないんだらうと思うんです。目標の立て方は誰も教えてくれなかった。まずはそもそも自分の人生、どこにたどり着くために何を勉強するんだと、そのことこそ最初に教えて欲しかったと思うんですけど。

目標は人を伸ばし、言い訳は人を駄目にします。成功の方法は数通りしかない。しかし言い訳は百万通りもある。ここ大事だと思います。感謝する成功者はいるが、他人のせいにする成功者はいません。「注意されたら有難う」なんです。「失敗できたらおめでとう」なんです。でも今、こうですね。「注意されたらこの野郎」ですよ。「失敗したらやめてや

ろう」。そういうふうを考えるソフトウェアが頭の中に入っています。子供たちにはまず正しいソフトを頭に入れてあげる、そしてそれをヴァージョンアップしてあげることが大事かなと思います。

成功の秘訣はこれだけです。思っていることと行動を一致させる。知行合一、言行一致。簡単に言うと20歳までの私、これやっていませんでした。プロになりたいと言いながら、今日雨だ、ああ練習が短いつて喜んでいたんです。思っていることとやっていることが全然違いました。これを一致させていくのが指導者の仕事であり、子供たちに教えていかなきゃいけないことなんです。

だから考えるだけでは駄目です。行動するだけでも駄目です。考えると行動するをセットで考える。これだけ努力しているのに結果が出ないと言って泣きついてくる子がいます。努力させる前に、ちゃんとしたソフトを入れておく。間違った方向に走ったら、逆に目標から遠くなります。今、あなたの目標

と行動は一致しているかという問いを、常に生徒たちに投げかけます。

イチロー選手が小学校6年生の時に書いた作文がすごいです。冒頭、「僕の夢は一流のプロ野球選手になることだ」。ここまでは私だって書けますね。次から私とイチロー選手の決定的な差が出てきます。「そのためには」と続きます。「そのためには」の後には必ず計画が入ってきます。

「でも」「だって」「どうせ」「だけど」は、人生を不幸にする「魔法の言葉」です。これらの接続詞の後にどんな言葉が来るかという、言い訳しか来ないんですね。逆に人生を幸せにする「魔法の言葉」もあります。これは「そのためには」と「どうしたら」ですね。この後には言い訳じゃなくて、みごとに計画がついてくるんです。

イチロー選手の作文には、「そのためには」が入っています。「そのためには」の後に、どうしなきゃいけないかってことが続くんですね。私の作文はこ

うなります。僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。でも、練習はしたくない」ってなるんです。「だって、なれるかどうか分からないから」って、みごとに作文ができ上がります。

「なぜできないか」を考えるのではなく、「どうすればできるか」と考えるソフトを頭に入れることが大事です。多くの人が犯す2つの間違いは、人や物のせいにする 것과不平不満を言うことです。私は20歳までずっと他人と物のせいにして生きてきました。他人のせいにする成功者はいない。言い訳をする成功者はいないんです。

### 菊池、大谷も書いた「目標設定シート」

今、具体的に何をやっているかという点、目標設定の技術、夢を叶えるテクノロジーを教えています。どうやって目標設定していかっているかを教えています。第一歩は夢を目標にする。そのために具体的な数字を挙げ、期限を設けて、言葉にし

て紙に書いていくということです。

「岩手県知事になる」って書いた生徒がいます。そのためには「資金が大事だ」とか「リーダー性が大事だ」と書いています。どこで覚えてきたんでしょうか。ある生徒は「2034年に岩手県仏教協会の会長になり、県ナンバーワンの僧侶になる」と書いています。大正大学を卒業して今、二戸（にのへ）というところで立派に僧侶をしています。目標を書いた紙に写真を貼るのも良い方法です。イメージや意識が明確になります。「40歳までに手に入れる」ってローレックスの時計の写真を貼った子もいましたね。

生徒には81マスの「目標設定シート」を作らせています。正方形を3×3の9マスに分けて、真ん中に最終的な目標を、周りの8マスに、「そのために何をするか」を書きます。3×3の周りにさらに3×3のマスをもつ描きます。それぞれの真ん中にはさつき「そのために何をするか」に書いた、いわば目標達成のためのプロセスとしての中間目標

を書きます。それぞれの周りには、その中間目標を達成するための、「そのために何をするか」を書いていきます。

高校時代の菊池雄星は81マスの中央に「高卒でドジャース入団」と書きました。「そのために何をするか」のひとつは、「甲子園で優勝する」でした。甲子園で優勝するために「スタミナ強化」だとか「徹底力」と書いています。夏はベスト4、春は準優勝でした。中間目標のひとつに「愛されるプレーヤーになる」がありました。そのために「ゴミ拾いする」とか「トイレ掃除する」とか「人の嫌がる仕事する」って書いています。「MAX155」って目標も掲げています。そのためには「フルスクワットで140kg」とか「ランジで120」って具体的な数字が挙がっています。甲子園のスピードガン、154kmでした。ただ来る日も来る日も投げていたからこのスピードが出たんじゃなくて、目指したから出た数字なんじゃないかなと思っています。

「目標設定シート」以外にもいろいろ書いています。「NHKで菊池雄星物語が特集される」とか書いています。「60歳で名言格言残して死ぬ」って結構早く死ぬことになってるんですね。

大谷翔平が入ってきました。最初かつこいいこと言いました。「実際に成功した人の足跡をたどる以外に確実に成功する方法はない」って。「実際に成功した人」とは菊池雄星のことを指しています。私、駄目だって言ったんです。「人と同じ方向に行く人は、空車の後ろを走る空車のタクシーのようなものだ」と言ったんです。「雄星さんみたいになりたい」とか「雄星以下になる。だから「雄星を超えるって言え」と言ったんです。すぐ雄星に電話して、「ちよつと大口叩くけど理由はこれこれこうだから」と言っときましたけど。

彼も「目標達成シート」を書きました。「運をつかむ」のために「ゴミ拾いする」とか「本を読む」とか「応援される」「人間性」「感謝」「礼儀」など

と書いています。「スピード160km」。そのために何  
するかってことを書いています。

私、プロのスカウトに、「彼は160出る」って  
言いきました。そしたら日本では当時、ジャイア  
ンツのクルーンっていうピッチャーぐらいしかいな  
かったので、「高校生に出せるわけない」ってすご  
い叩かれたんです。私、頭に来てですね。そうした  
ら3年生の時だったです。一関学院（岩手）との試  
合で160km出しました。びっくりしなかったで  
す、目指していたので。2年生の時に怪我したので、  
一年遅れたなぐらいの感覚だったんです。

「あなたの能力の限界は、あなたの思考が設けた境  
界線であり、あなたが自ら築いた壁である」という  
言葉があります。大谷が160出した瞬間に私、次  
も160すぐ出ますよって「ナンバー」にしゃべっ  
たんですね。そしたら佐々木朗希君が出しました。  
でも驚くことじゃない。陸上選手が100m9秒台  
出したら、9秒台、山ほど出てきました。なぜか。

思考の限界を境界線として設けていただけだからで  
す。夢でなく目標にしなければ達成できませんが、  
できると思っただけでできるようなんです。  
「人類史上の進歩のほとんどが、不可能を受け入れ  
なかった人によって達成された」ということです。

2018（平成30）年にメジャーリーグの新人王  
を獲りましたけど、私は騒ぐほどのことじゃないと  
思っていました。「目標達成シート」の他にも大谷  
翔平は高校時代、自分の目標をたくさん紙に書いて  
残しています。高卒でアメリカに行く予定でしたか  
ら、「3Aに昇格」とか書いています。「ドジャース  
に行く」とか「サイ・ヤング賞」「最多勝達成」だ  
とか、いろんなこと書いています。「世界最高のプ  
レーヤーになる」って書いています。新人王は通過  
点ということですが。「野球の歴史を変える」とも書  
いています。去年のMVPもまたまた獲ったんじゃ  
ないかと思っています。「28歳で男の子が誕生」って  
書いているので、そろそろ彼女を作らなければいけ

ませんね。「37歳、長男野球を始める」とか「世界旅行する」とか「日本に戻ってメジャーのシステムを入れる」とかいろいろ書いて、「80歳で死亡」って書いているので、雄星よりは20年ぐらい長く生きて亡くなる予定になっていますね。

今、私が学んできたこと、生徒に教えていること、夢を叶えるテクノロジーを、野球の視点で一冊の本にまとめています。『Hanamaki Higashi Baseball team Philosophy』というタイトルで、日々の日誌と目標設定の日誌を、印刷会社に頼んで、こんな分厚いんですね、革装で。毎年しゃべっていたつもりだったんですけど、2年半で選手はどんどん入れ替わっていくし、あれ、話していたつもりだったけどなどというものが多くて、これはちゃんと残しとかなきゃいけないというので一冊にします。

経営のセミナーで聞いて心に残っている話を最後にさせていただきます。ノミの実験の話です。ノミつてとんでもない跳躍力があるらしいんですけど、

高さ30cmの筒に入れて蓋をすると、1分もしないうちに28cmか29cmしか跳ばなくなるそうです。そして蓋を取っても二度と30cmより上には跳べなくなるそうです。

この話、ここまでは何とも思わなかったです。でも話には続きがあったんです。この跳べなくなったノミをもう一回跳ばすにはどうしたらいいか。跳んでいるノミの側に持っていけば跳び始めるそうです。もう私、それを聞いて大興奮して、すぐ電話をしたんですよ、甲子園2連覇していた駒大苫小牧（北海道）の当時の香田誉士史監督よしかみに電話して、すぐあなたのところに行きたいと伝えたんです。私自身もまだまだ全然跳べてないので、今でも跳べる人の側に行つて跳ぶようにしていますし、選手にもそういう環境を与えながら、まだまだ未熟ですけど頑張っています。

（本稿は2022年1月22日、東京都世田谷区の国土館大  
学で行われた講演を再構成したものです）



# 大谷を越えろ

## 花巻東・佐々木監督 教え子らと揃って受賞

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

大谷を越えろ

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

# 大谷を越える

## 高校の恩師&先輩の雄星と日本ス

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

大谷を越える

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

# 雄星

## 花巻東・佐々木監督 教え子らと揃って受賞

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

雄星

花巻東監督 佐々木 隆之

2022年1月23日(日) 11時

スポーツニッポン

ふだんの夜 ちっとリッチ

2022年1月23日(日) 11時

76%が契約延長を

11勝目を

雄星も

第12回日本スポーツ学会大賞は大きく報道された。



春の選抜大会(2009年)で決勝進出した花巻東のエース・菊池に憧れて大谷は同校に進学を決めた。2010年春、菊池が高校を卒業すると、直後に大谷が入れ替わるように入學した。



## 菊池雄星選手インタビュー

——花巻東高校を進学先に選んだ理由を教えてください。

菊池 僕は、中学時代より「プロ野球選手を目指せる」と周りから言われていました。ただ、高校へ進むにあたってはプロ入りよりも、まずは「甲子園で優勝したい」という思いの方が強くあったんです。花巻東高校は甲子園優勝を目指し、しかも岩手県の選手だけで成し遂げることを目標として掲げていました。僕自身も盛岡市出身なので、これは進学するしかないなと。

プロ野球選手を目指す以前に、まずは甲子園優勝という思いで花巻東高校を選んだわけですが、理由はそれだけではありません。佐々木洋監督の野球だけでなく人としても成長を目指すという指導方針にも共鳴して、進学先に選ばせていただきました。

——菊池選手にとって、花巻東高校で過ごした時間

とは？

**菊池** 高校時代、佐々木監督から「目標をとにかく大きく持ちなさい」と言われ続けてきました。

甲子園優勝に始まって、次にドラフト1位で入り、そしてドラフト1位指名が視野に入ると今度は高卒でメジャーリーグを目指す。このようにより高い目標を目指し、佐々木監督と練習に取り組んでいきました。

目標を常により高いところへと更新して、目指し続けることは、今も自分の大きな信念です。そのために目標設定用紙や日誌を書きつつ、「自分の目標は何なんだ」「自分の夢は何なんだ」と自問自答しながら日々過ごしています。

——高校時代の印象に残っている試合を教えてください。

**菊池** 2009年の夏の甲子園、準々決勝の明豊（大分代表）戦が、すごく印象に残っています。僕は怪我で途中降板してしまったのですが、チーム全

員が一つになって延長戦を勝ち抜き、ベスト4入りを果たしました。

この試合では、満員の球場全体が花巻東高校を応援してくれていると感じる雰囲気包まれたんです。プロに入ってから色々な舞台で投げてきましたが、あの試合はなかなか経験できるものではないなど感じるくらい、自分の人生のベストゲームだと思っています。

——佐々木監督からかけられた言葉で、特に心に響いたものは何でしょうか。

**菊池** 入学してすぐに監督から、「3年間、とにかく雄星で勝負をする。ということは、雄星で負けることもあるんだ」と言われました。そして、「もう雄星で負けたら仕方ないと部員100人全員が思える、そういう選手になってくれ」とも伝えられました。

そういう意味では、常に負け投手だった高校の3年間でしたね。1年生で出場した夏の甲子園、先輩

方の思いを背負って投げたにもかかわらず負け投手になりましたし、チームが負ける時はいつも自分が投げていた記憶があります。

ただ、「雄星で負けたら仕方ない」「雄星と一緒にプレーしたい」、そう部員全員から思ってもらえるような選手になるために、監督からは野球以外にも大切にすべきことを3年間ずっと教えられてきました。それはベンチ外の選手も含め、仲間にとだけ心配りができるかが本場に大事なんだということ。チームやプレーする場所が変わっても、この教えは大切にしていますし、ファンの皆さんの期待に応えたいという思いにも繋がっています。

—— 菊池選手は球界きつての読書家として有名です。高校時代にご自身を支えてきたのは、どんな本でしたか。

**菊池** 読書は中学時代から好きで、今も年間に200冊以上は読んでいますでしょうか。

高校でも暇さえあれば本をよく読んでいて、佐々

木監督からも「本を読みなさい」といつも言われていました。そして、佐々木監督は「とにかく歴史から学びなさい。先人たちの経験や失敗談を自分に置き変えて、学ぶことが大切だ」ともアドバイスしてくれました。なので、高校時代からは歴史小説を中心に読んできましたね。

中でも、『上杉鷹山』（童門冬二）が一番心に残っています。上杉鷹山は米沢藩（現在の山形県東南部置賜地方）の財政を建て直した江戸時代屈指の名君として知られる人物。この一冊から学んだのは、リーダーとしての在るべき姿です。部下がついてくるために、リーダーは組織の中で常に模範となり、自分がルールを決めるだけでなく、自ら率先してルールを守らなければならない。そういうったメッセージを受け取ったように思います。

この小説との出会いを機に、プロに入ってから行動で示すという考えを大切にしてきました。特に子どもたちは僕らの背中をいつも見ているので、子

どもたちへの影響も意識しながらプレーするようにしています。

——岩手県の読書感想文コンクールに協力されていますね。この支援を通じ子どもたちに伝えたいことは何でしょうか。

**菊池** 2020年から、「岩手読書感想文コンクール（※1）」（岩手日報社、日報岩手書店会主催）に協力しています。「菊池雄星特別賞」の選定に加え、新設した「雄星文庫賞」では、読書の取り組みに優れた学校へ「雄星文庫」として本を寄贈させていただいているんです。

この支援には、僕自身の競技人生が大きく関係しています。振り返ると、いつも周りを自分よりもレベルの高い選手たちに囲まれてきました。小中高すべてにおいて、僕よりも本当にうまい子たちがたくさんいる中で、ずっと負け続けてきたんです。

どうすれば彼らに勝てるんだろう、そしてプロ野球選手になれるんだろう。負けたくない一心で人

会いに行つて話を聞き、本を読み漁つてはヒントを探していました。

決して能力が高いとは思えなかった僕がここまで成長してこられたのは、人との出会いに加え、本との出会いも大きかったという自負があります。子どもたちにもたくさんの本を読んでもらつて、何か一冊でも一行でも、たった一つの言葉でも、それを感じかけとして生きる励みや夢を諦めないというモチベーションに繋げてほしい。こういった思いで読書感想文コンクールへの協力を続けています。

——2022年の抱負を聞かせてください。

**菊池** 僕自身は今年の所属先がまだ決まっていますが、どこでプレーするにしても、とにかく怪我なく野球を楽しんで、良い結果を残せるように頑張りたいと思います。

そして、花巻東高校の「決して諦めない」という教えの下、僕自身が目指す夢に向かって決して諦めることなく挑戦し続ける、そういう日々を送ってい



きたいなと考えています（※2）。

※1…2020年から「菊池雄星文化プロジェクト 岩手読書感想文コンクール」に改称  
※2…このインタビューは1月22日の第12回日本スポーツ学会大賞にて公開されたものです

## 大谷翔平選手 日本スポーツ学会大賞受賞に寄せて

この度は、日本スポーツ学会大賞に選出していただき、ありがとうございます。高校時代の先輩でもある菊池雄星さんと、佐々木洋監督と一緒に受賞できることをとてもうれしく思っています。これからも野球界、そしてスポーツ界と一緒に盛り上げていけるように頑張りたいと思います。

構成 山内亮治

人材  
育成

興味のあるものは  
2つでも3つでも  
トライしてほしい

寶馨



2014.10.11

2014年10月11日 関西学生野球連盟・秋のリーグ戦 対関西学院大学 11回戦  
寶監督(中央)の右後方は、田中英祐(京大からプロ選手第一号)

取材・構成＝長田渚左

**寶馨**(たから・かおる) 1957(昭32)年2月12日、滋賀県彦根市生まれ。兵庫県立西宮北高硬式野球部から京都大学硬式野球部部員を経て、コーチ、監督及び部長を務めた後、関西学生野球連盟・審判委員、副会長などを歴任し、2021年12月より第8代日本高等学校野球連盟会長に就任した。専門は水文学、水資源工学、防災技術政策、極値統計学。日本における水文統計学の第一人者的存在。京都大学大学院総合生存学館(思修館)教授

——子供の頃から野球は身近なスポーツでしたか。

寶 小学1年の誕生日に父にバットとグラブを買ってもらいました。父も野球好きで職場で草野球をやっていました。国鉄職員だった父は転勤が多くて、自分は小、中学校をそれぞれ2つずつ経験しましたが、小学5、6年になると自分が中心となつて隣のクラスにも「野球やらんか?」と同学年のほかのクラスに声をかけて、毎日のように9人2組の18人を集めていました。今は18人も集めるのは大変でしようけど……。

——野球のどこに惹かれたのですか。

寶 器械体操は苦手だったし、走るのも速くなかった。でも、野球は走、攻、守の組み合わせで多面的でしょう。キャッチボール、守備、打撃、投手ならコントロールと、あらゆる面で自分の技術を磨かなければなりません。試合では立ち上がり、中盤、終盤とさまざまな局面で勝負どころが訪れます。またホームラン一発で4点取れることもあるし、1回に

一挙7、8点が入ってしまうスリルもある。魅力がいっぱいです。90分かかっても1点も取れないこともあるサッカーとは、また違う魅力ですよね。

——すると中学も高校も野球部だったのですか。

寶 それが中学では最初サッカー部に入ってしまった(笑)。どうしてもまた野球がやりたくて、サッカー部のキャプテンに頭を下げに行きました。「やめさせてくれないか。自分は高校に行っても野球を続けたいと思ってるので」とね。周りから恐れられていたサッカー部だったので、どんな目にあわされるかわからないと思つて覚悟を決めて伝えたら、「高校へ行っても続けるとは」それは良い心がけや。野球部で頑張れ」と言つて了承してくれました。

——へえ、男同士の話し合いですね。

寶 そうですね。それで高校へ行つても野球を続け、大学へ行つても続けて、その時の友情というか約束を守つた気がしています。

——高校は創設2年目の兵庫県立西宮北高校へ?

寶 新設校の苦労というか、楽しみというか、グラウンド造りから始めました。新しい校地はあつたけど、山の上を切り開いたような所だったので、石がゴロゴロしていました。角材にアミを張った手製の篩ふるいで、スコップで内野全面を掘り起こして、石を取り除いて整地しました。

——映画『フィールド・オブ・ドリームス』のようですね。

寶 後にアマチュア野球の指導者になれる比屋根吉信さん（※）が、当時は大阪体育大学の学生で、シーズンオフだったことで野球を教えに来てくれました。グラウンド造りも一緒に手伝ってくれました。マウンドに土を盛って、ファウルラインの線を画定して引いて、ブルペンまで造りました。自分は1年生の初めの頃はピッチャーでしたけど、肩が強いから1年夏からはキャッチャーもやりました。——ピッチャーに加えて、キャッチャーまで!? 今  
は珍しいですね。異なる魅力を感じましたか。

寶 そうなんです。キャッチャーをやっていたある日、セカンドまでフーッと楽に球が行くようになった。継続は力なり……ですね、技量が身に付いたという実感がありました。ピッチャーをやっているも、ある日、カーブがキュッ!と切れるようになる。つくづく面白いと思いましたね。

——野球をやりながら、難関の京都大学に合格されました。勉強はどのようにされていたのですか。

寶 ラジオを聴きながらの毎日で、いわゆる「ながら族」でしたね。夜11時から『ヤンリク』（ABCヤングリクエスト）、その後に『ジェットストリーム』を聴き、午前2時くらいまでは勉強していました。学校の授業も居眠りしないように、しっかりと聞くようにはしていました。高1になってすぐの間テスタの生物で、サボリまくって20点しか取れず、猛反省したことを覚えています（笑）。新設校だったということもあるでしょうが、先生方には影響を受けました。1、2年の担任は広大（広島大学）

を出た先生で、古典の文法の参考書で動詞の活用表の記載を「この活用表は書き換えたほうがいい」と教えてくれたのです。

——古典に造詣が深い先生でしたね。

**寶** 新鮮でした。教科書や参考書は正しいもので、そのまま学ぶものだと思っていましたから。さらに「授業」というのは「授<sup>さづける</sup>」という字を使うけど、手ヘンを取って「受業」にすべきだと言うのが先生の持論でした。上から下へ『授ける』のではなく、『受ける』すなわち「自主的に勉強しろ」という意味でした。ふつうは6時限目が終わると担任がクラスにきてホームルームをやるわけですけど、向かいの棟の職員室の方を見遣<sup>や</sup>ると、先生が廊下まで出てきて頭の上に手で大きな丸のサインをつくるんですよ。それは僕に「ホームルームは任せるよ」というサインでした。

——京大には行きたいと元々思っていたので、それを先生に告げると、「京大の試験は国↓数↓英↓理↓

社という順で、(得意科目の)国語から始まるから君に向いているよ」と言ってくれましたね。否定的な発言は一度もなかったから、たぶん自分でもその気になっていたのだろうと思います。難しい理学部や法学部などは無理だろうけど、工学部は毎年950人も合格できるから、その中には何とか入れるだろうと思っていました。他の先生も面白くて、国学院大出で北村透谷をテーマに卒論を書いたという先生は、よく難しい漢字のミニテストをやりました。「ミイラ」を漢字で書きなさいという設問で、本当は『木乃伊』と書くところを、正解を思いつかなかった僕が苦し紛れに『包帯巻乾燥人間』と書いたら○をくれました(笑)。

——(笑)それは良いですね。

**寶** このような答えを書くやつはおらん、自由な発想が良いなあ、と誉めてくれました。定説以外にも正解があることを、このとき教えてもらった気がします。職員室の先生方の間でも「なかなか面白い」

とひとしきり評判になったようでした。

——幅のある先生の多かった高校で、勉強にも精を出され、見事に京大に入られました。

寶 いやあ、何とかもぐり込んだだけですが、学科の新生ガイダンスに行ったら、教務担当の助教が自分が顧問を務めるホッケー部の宣伝をし始めました。すると、学科主任の教授が、「いや、野球部に入れ！」と言いつつ出されたのです。初めて出会った京大教授が硬式野球部の部長だったのです。ホッケー部の顧問の助教は、その後、新生一人一人に手紙を書いて送ってきました。大学のクラブの顧問の姿勢を学んだような気がしました。ホッケーには興味はなかったですし、結局、中学のサッカー部キャプテンとの約束もあるので、野球部に入りました。硬式野球部の部長先生は、日本の水文学の草分け的な存在でした。自分は、当時、専門は何でも良かったのですが、今となつては水文学でよかつたな、と思つています。世界中に川はあるし、水の問題も起

きる。その恩師と同じ道に進み、洪水災害を防ぐ研究を重ねて、野球にもずっと携わることになりました。野球が私の人生を決めてきたとも言えますが、「出会いだ」とつくづく思いますね。

——大学時代は投手として活躍されました。その後、監督や部長、審判、さらに関西学生野球連盟副会長なども歴任されました。現在は京都大学大学院総合生存学館の教授です。まさに文武両道ですね。寶 うーん、キャリアとしてはそうなりますかね。

総合生存学という学際的な分野は、社会変革課題や地球規模の問題を実際に解決するような研究をしています。多様な分野からの学生、さらにはさまざまな地域からの留学生もいて、異なるバックグラウンドを持った人たちが集まって一緒にやっています。幾つもの個性を、一つへ方向づけるといのは野球のチームにも似ている気がします。文武両道といつても学校ですら勉強(座学)だけではなく、それ以外に人と人が互いを理解するための幾つも

の要素、あるいはその違いを認識して、実践するところが大切だと思っています。

——2021年12月に高野連の第8代会長に就任されました。

寶 まずは選手の健康を第一に考えています。せっかくの素質や能力を、投げすぎや熱中症などで損なってはならない。加えて長雨、悪天候による影響を十分に考慮して、中断した場面から翌日に試合を再開する『継続試合』も有効な方策だと思います。

——昨年の夏の甲子園では女子の硬式野球の決勝が、空いた時間に行われて大きな話題でした。

寶 違和感はありませんでした。将来のことを考えれば、野球好きの沢山のお母さんに男女を問わず、自分の子供に野球をやらせたいと言ってもらえるようになってほしいです。

——会長に就任されて、おやりになりたいことは？  
寶 実は事務局長にも伝えていない話ですが、高野連の事務局の人たちに、何カ月かのインターンシッ

プの機会を提供したいと考えています。事務局で一生懸命に仕事をしてくれているのは大変有り難いですが、他の分野や業種、社会に触れることが、その人自身の成長に結び付き、ひいては、それが高野連や高校野球界全体の発展につながると考えます。

——最後に一つ伺います。日本のスポーツ界に根深く残る体罰問題がありますが……

寶 僕自身は今まで選手を殴ったことも、殴られたことも一度もありません。選手の心と体を第一に考えて、科学の力も取り入れて、発展してほしいです。やっぱり1日10時間も練習し続けるのは異常です。内容の濃い練習をして、それで空いた時間に別の好きな事を、2つでも3つでもトライしてほしい。二兎を追う者は一兎をも得ず<sup>ことわざ</sup>、という諺もありますが、今はあらゆる機器が進歩していますから、好きな野球はまず第一に考えて、その上で他に興味のあるものがあればそれも学ぶ、そのような環境が得やすい時代なので、と感じています。

人材  
育成

# 水泳は自己表現の 一つです

河合  
純一

取材・構成＝長田渚左

河合 純一(かわい・じゅんいち)1975(昭50)年4月19日、静岡県浜松市生まれ。5歳で水泳を始め、15歳のときに視力が完全に失われる。国立筑波大学附属盲学校(現・国立筑波大学附属視覚特別支援学校)から早稲田大学教育学部へ進み、1997年教員採用試験を受験。98年大学卒業後、全盲で全国初の公立中学社会科教師として母校の舞阪中学校に着任、8年間教師を務めた。92年バルセロナパラリンピック全盲部門に出場し、以後ロンドン大会まで計6大会で金メダル5個を含む21個のメダルを獲得。日本パラリンピアンズ協会会長などを歴任し、現在、日本パラリンピック委員会委員長。2022年北京パラリンピック日本選手団の団長。16年日本人で初めて「パラリンピック殿堂」入り

——河合さんは幼い頃から夢が二つありました。一つは水泳で世界一になること。もう一つは教師になること。いくつもの壁も乗り越えられて、二つとも実現されたのは本当に凄いことです。

**河合** いやあ、かなり前のことなので今さらという気もしますが……まあ、そういうことになりましたね。

——まさに初志貫徹されるわけですが、人生の転機が訪れたのが、15歳の中学3年のときですか。

**河合** そうですね。生まれつき先天性ブドウ膜欠損症という目の病気でした。左目の視力はもともとなくて、右目もほとんど見えませんでした。3歳のときに手術を受けて、0・1の視力を取り戻しました。それが、再びだんだん見えにくくなって、中3で見えなくなりました。

——水泳を始めたのはいつでしたか？

**河合** 5歳からスイミング教室に通っていました。生まれ育ったのは静岡県西にある浜名湖の太平洋

側に面した舞阪町という漁師町です。周りには海があり、水といつも遊んでいた印象です。通っていた舞阪小学校は、町立にもかかわらず温水プールがありました。部活で土曜日もお弁当を持っていき、食べた後にまた泳ぐ……そんな生活でした。

——町立の小学校に温水プールがあるのは珍しい。

**河合** 確かに恵まれていたと思いますね。もともと水泳の盛んな土地柄でもありました。隣町が浜名湖のすぐ近くで生まれた偉大なスイマー、『フジヤマのトビウオ』の異名をとった古橋広之進さんの故郷でした。

古橋さんは地元では水泳で学童日本一になった人として知れ渡っていて、僕も自伝を読みました。中学のときにアメリカとの戦争が始まって、工場に動員され、作業中に機械で左手中指を切断してしまふ。その致命的なハンデいを猛練習で克服して世界記録を次々と更新されました。ですから古橋さんへの親しみもあって舞阪小の水泳部はスイミングス

クールなどにも負けないくらい強かったですね。

——次第に視力が落ちていっても、コースロープのあるプールで泳ぐのは、それほど支障がなかったのですか。舞阪中でも水泳部でしたね。

**河合** いやあ、見えないと泳ぎは曲がるんです。5メートルぐらいまでは大丈夫ですが、その後は曲がります。加えてターンのとき壁にぶつかる。何回壁に頭をぶつけたか分かりません。水泳部の仲間が壁にタオルをはり付けて衝撃を少しでもやわらげようとしてくれたりしましたが、それでもぶつかって、血を流したこともありました。

——えーっ、そうなんですか。パラ水泳では壁が近くと、ターンする直前に指示棒で選手の頭をポンとたたいて知らせますが、まだ指示棒とは出会っていなかったのですね。

**河合** 一度、水泳をあきらめかけたこともありましたが、水泳部の顧問の先生に「途中でやめるくらいなら、最初からやるな!」と怒られました。実は

中3のときに目が見えなくなった後、初めて県大会の決勝に進出することができたのです。

——それは凄い。

**河合** そう、凄く自信になりました。浜名地区中学水泳大会の100メートル背泳ぎで3位。その後、静岡県西部地区で7位になって県大会にも出場しました。目が見えなくても水泳はできるという、生きる自信のようなものをつかんだ気がしました。

——その後、東京都文京区の筑波大学付属盲学校へ進みますが、全国から受験生が集まる難関校です。

**河合** 親戚の伯母が勧めてくれた学校でしたけど、当時は今の時代みたいに情報がなかったですから、選択肢は少なかった。今思えば、15歳なりには考えてはいたという気はしますが、もし、今の自分が河合少年の担任だったら「もつと真剣に将来を考えると」げきを飛ばしたかもしれませぬね(笑)。

——生まれ育った町とはまるで違う、未知の世界の東京で寮生活を始めたわけですね。しかも、東京

は車も多く、過密な環境の上に、ご自身は目がまったく見えなくなりました。ガラリと環境が変化する中で、何を必要としましたか。

**河合** まずは点字の習得と、白杖はくじょうの体得でした。20人ほどの同期は全盲と弱視が半々でしたが、すでに小、中学校で点字を学んでいる人が多かったです。僕には初めてのことばかりでしたから正直、かなり戸惑いました。

——徹底的に訓練と実践練習をしたのですか。

**河合** やらなぎや……という気持ちはあってもスキルや能力がなかなかついていかなかった。つまり何という文字なのか読み取る指先の感覚を、脳で瞬時に判断できるようにするまで時間がかかりました。点字を書くほうが、読むことに比べれば楽でしたけど……加えて白杖で歩く感覚を養わないと、どこにも行けないし、危険も避けられない。

——そのような環境の中でも水泳は続けて、盲学校の2年のとき、1992年(平4)のバルセロナ・

パラリンピックに出場して、自由形と背泳ぎで銀メダル2つ、銅メダル3つを獲得。その後も5大会に出場して金メダル5つを含む合計21のメダルを獲得しました。やはり生きる上で水泳は大切でしたか。

**河合** 水泳は自己表現の一つです。泳ぐことで「僕はこういう人間です」と伝えられている気がします。実は水泳は目が見えなくなつてからのほうが面白くなつたのです。

——えっ、どうしてですか。

**河合** 入水のときのひじの角度や、水をかくときの力の入れ方、逆に力の抜き方などが、よくイメージできるよになつたのです。見えるときは何も考えずに、ただ泳いでいるだけだつたと思います。例えば人は歩くとき、骨盤をこうしてみようとか、太ももの後ろを意識していませんよね。ただ、何も考えずに前進するだけでしょ……でも本当はいろいろな所を意識して歩いた方が、体には良いわけです。見えなくなつて体のいろいろな所を感じながら泳げ

るようになった気がします。

——泳ぐ上で独自の感覚をつかまれた？

**河合** パラリンピックは障がいの程度でクラスが分かれていきますよね。僕はS11（全盲の部）で、公平性を保つために光を遮断する黒いゴーグルを付けて泳ぎます。普通に見える人は隣のコースの人の泳ぎを見ながら試合運びを考えることもできませんでしょうけど、僕たちのレースは自分との戦いがすべてです。——トップアスリートになっても試合でまっすぐ泳ぐことは、やはり難しかったですか。

**河合** そう。泳ぎながら、まっすぐに進むように修正を繰り返して、前へ進むともいえます。

——まるで人生のように？

**河合** そうそう。パラリンピックは引退したけど、ほかの試合はアマチュアですから出場できるので、気が向いたらまた試合に出たいと思っています。昨日も1時間で2キロ泳ぎましたよ。

——筑波大付属盲学校高等部卒業後、早稲田大学

に進学されました。その頃に河合さんが大学の近くの交差点付近を歩くのを見て驚いたことがあります。大学の近くはまだ車道と歩道の間のガードレールも整備されていない上、歩道にはいくつもの隆起があり、目で確認してようやく歩けるような道なのに、河合さんは凄いスピードで歩行していました。白杖さえ手にしていなければ、目が見えないとは誰も思わなかったでしょう。水の中で速いのは知っていました（笑）、陸上でのスピードにもびっくりしました。人はどこかに障がいを持つと、脳に「代償機能」が働いて、新たな適応能力を獲得して、今まで使えていなかった神経機能が使えるようになる。「可塑性かそせい」<sup>※</sup>があると言われていますが、河合さんの歩く様はそれを思わせました。

**河合** 大学には毎日のように行っていましたから、大学のキャンパスも周囲の道も頭には入っていました。大学の近くも目が見える人たちと同じように、頭の中に風景が描かれるのです。まっすぐに行くくと

信号、右手にレストランが2軒あって、ハンバーガー店、そして地下鉄。地下鉄は階段を下りた所で電車に乗ると、だいたいどの駅でも出口に向かう階段にかなり近い構造になっています。何度か行った所は匂いや風の流れや空気、足で踏みしめる感触で、以前の記憶と重なって分かることもあります。

——そして公立中学の社会科の教員試験に合格し、実に8年も教壇に立たれました。目が見えなくなつたときに「教師になりたい」という夢が少しも揺るがなかったのはなぜですか。

**河合** 普通の中学に、それまで目が見えない教員はいなかったの、ほとんどの人はまず無理だと考えていました。僕にとつても「絶対にできる」という自信はなかったですけど、そもそも絶対にできるものにチャレンジする気にはなれない。僕が悩む基準はできるか？ではなくて、やるかやらないか……です。水泳ではアトランタ・パラリンピックで夢だった金メダルを獲得していました。だから教員試験に

合格して、教壇に立つことも望みました。障がいのある僕だからこそ、生徒に教えられることもあると思っていました。今もいろいろな学校の授業に招かれて話をするがありますが、「障がいがある人は可哀想だ」と思っている子供が多いです。

確かに障がいがあると不便で不都合なことはありますが、それも一つの個性だと伝えていきます。「僕が目が見えなくても、全然、寂しくない」と話します。むしろ障がいがあるおかげで、普通の人より強くなれるし、よし努力しよう、頑張ろう……という生きる勇気が湧いてくると話します。もし、普通に見えていれば、今の僕があるかといえば、そうとは言い切れないと思つています。中学3年で目が見えなくなる事態が起きたのは事実です。でも不運だと言いつつ諦めていたら、残るのは屈辱だけです。僕はそういう生き方は絶対に嫌でした。だって目が見えなくなつたからといって、僕が河合純一でなくなるわけではないですから……。

# 「走」第1回



「速さ」は産業革命以後の価値!?

玉木正之

《より速くCitius より高くAltius より強くFortius》——これは「近代オリンピックのモットー（標語）」で、古代オリンピックには存在しなかった言葉だ。

1891年、高等学校の校長だったドミニコ会のアンリ・デイドン神父が考案し、高校生の陸上競技大会で使ったもので、それを3年後の1894年、IOC（国際オリンピック委員会）の設立時にクーベルタン男爵が、オリンピックのモットーにと提案し、承認されたという。

古代オリンピックにも200m前後を走り、速さを競う競走（スタジオン走）は存在したが、それは争う走者を押し倒したり、足を引っかけてもよく、「強さ」も競うものだった。実

際場所の移動には、途中で狼や山賊や敵と出会う可能性もあり、昔は足の速さ以上に強さが必要だったのだ。

ところが産業革命で蒸気機関車が出現すると、誰もがその「速さ」に驚いた。最初のうちは「俺のほうが……」「俺が育てた馬のほうが……」と、人や馬が機関車に勝つこともあったが、そのうち人や馬は、どこまで走っても疲れない汽車に勝てなくなり、さらに自動車も現れ、人々は「速く走る価値」を認めるようになった。そしてさらに、速くモノを作る機械、速く作業を行う機械、速く計算する機械も現れ、「速さ」は近代社会で最高の価値となったのだ。

オリンピックでも最初はレスリングのヘビー級王者が、最も「強い」アスリートとして讃えられた。が、今では100m走やマラソンでも「速く」走るアスリートが、いちばん注目されている。

「より強く」から「より速く」へ。次は、どんな「走り方」が評価される時代になるのか……?



# 夢劇場『馬』

No.26



神様がいつばい

長田渚左

仕事机の脇に、毎年いただく競馬カレンダーが掛けてある。美しい写真ばかりなので、一年が終わっても捨てる気にならない。だから部屋の壁には、ところ狭しと馬が走っている。

これは誠に不思議な光景なのだ。疾走する瞬間にシャッターが切られた馬の写真には、映像とはまるで異なる様子が写ることをご存じだろうか。

一枚の写真に一頭しか写っていないのだが、どの馬も地面に着いている脚は一本だけ。馬が四本の脚の一本一本に体重を乗せて、地面を蹴ることが見事なまでに写し出されているのだ。じっと見つめると、五百kgもの馬体重が少しも感じられず、空間に浮かんでいるように見えてくる。

昔、天馬と呼ばれたサラブレッドがいたが、壁

のどの馬にも羽があるように思える。

以前、競馬の取材をしていたとき、端午の節句に飾ったらよさそうな、目のギョロツとした騎手がいた。加賀武見さんである。当時は日本騎手クラブの会長もしていた。逃げの加賀、と呼ばれ、スタートから勢いよく先頭に立ち、最後まで馬を抱きかかえて走らせてしまう粘りの技術は、津軽のじよつぱり走法とも呼ばれた。

ある朝、調教を終えた彼を追いかけて、「加賀さんにとつて馬は何ですか」と聞いた。すると怖いギョロ目が急に柔和になった。そして「馬は人間のような欲を持たない。勝つたからと言ってご馳走や美味しい酒が飲めるわけでもない。ひたすら走って人に奉仕してくれる。馬は神様だと私は思っています」と言った。

あの青森の独特なイントネーションは今も耳に甦る……ふと、それならば私の仕事部屋の壁には神様がいつばいいるということか……と気づき、思わず壁の馬たちに一礼した。



## バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。

〒352-0011  
埼玉県新座市野火止8-16-32  
株式会社東美物流  
『スポーツゴジラ』係

送料値上がりのため45号より変更しました。

10冊まで 送料 400円

20冊まで 送料 700円

40冊まで 送料1200円

※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

### 【ホームページ】

<http://sportsnetworkjapan.com/>

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えいただけると幸いです。

次の夏号第55号は2022年6月

中旬刊行を予定しています。ご期待ください。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館でお読みにいただけます。ご利用ください。

- 世田谷区八幡山・大宅壮一文庫
- 世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館
- 港区広尾・東京都立中央図書館
- 千代田区永田町・国立国会図書館
- 港区芝・東京都人権プラザ図書館

### 【理事】

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／長田渚左（ノンフィクション作家）／笠原一也（日本オリンピック・アカデミー名誉会長）／佐久間昇二（びあ株式会社取締役）／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）／永井憲一（法政大学名誉教授）／山口香（筑波大学教授）／山口良治（京都工芸大学院ラグビー部総監督）

### 【事務局】

〒359-1192  
埼玉県所沢市三ヶ島2-1579-15  
早稲田大学スポーツ科学部 太田章研究室 気付

皆様、ご存じでしたか？

都営地下鉄では、小さなお子様連れのお客様に安心して気兼ねなく電車をご利用いただくため『子育て応援スペース』を設置しています。詳しくは、交通局HPをご覧ください。

## スポーツゴジラ®

2022年3月7日発行

第1巻第54号

無断転載・転売を禁じます

企画編集 スポーツネットワークジャパン

長田渚左・川本凜太郎・阿部雄輔

波多野圭吾・西本祥子・江川卓美

制作 山内亮治・鈴木希人

印刷・製本 株式会社 美松堂

発行 スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0063

杉並区和泉1-40-13-401